

中高生の修学旅行農業体験受け入れで説明会

ネットワーク協設立へ

町内全農家の加盟目指す

【和寒】道内外の中高生の修学旅行生などを町内農家で受け入れる体制づくりを目指している町農連連盟（中原浩一執行委員長）は二十二日夜、JA北ひびき和寒基幹支所で町内農業者を対象にした説明会を開催した。

川管内東川町）の紹介を受けて五月末に札幌市内の中学校の研修旅行生六十人ほどの半日受け入れを予定しており、町内二十戸の農家と準備を進めている。

この日の説明会には、町内の農業者約二十人が出席。「アグリテック」の担当者が道内で行われている先進事例を映像などを使って紹介した。また、同連盟は、受け入れ事業の実績を積んだ上で、新たな事業基盤を確立したいとしており、出席者に和寒町グリーンツーリズムネットワーク協議会

（仮称）の設立と参加を呼び掛けた。

中原執行委員長は「五月の受け入れをスタートとして、実績を積みながらどのようなメリット、デメリットがあるかを見

極めて受け入れの基盤づくりを進めたい。当面は町農連連盟で事務局を担当して事業を進めるが、将来的には、行政なども協力して観光ビジネスとして町内全域の農家が加盟するような受け入れ体制を整えていきたい」と話している。

なお、剣淵町でも「アグリテック」からの紹介を受けて同様の事業が進められており、農家十戸に対して四十人ほどを受け入れる予定。受け入れる生徒は和寒町農連連盟と同一校で、同日両町に



アグリテックの担当者が先進事例を説明した

合わせて百人ほどの生徒が半日の農業体験に訪れる予定となっている。

（蠟崎一生）

北都新南

H19. 3. 23.